

# にこそ真の力が存在する 中で永遠に生き続ける命

親父に反発して汗を流す大工の仕事をしたものの  
空を見上げる癖が災いして逆に見つけた天職  
無我夢中になれるものが自分には必要  
ドキュメンタリー映画を難しい暗いと言うのは誤解  
記録することから何かに出逢い何かが見つかる  
シナリオを超えて見えてくる様々な未知の世界

## 伊勢真一氏

ドキュメンタリー映像作家

1949年東京生まれ。『奈緒ちゃん』『えんとこ』をはじめ、数多くのヒューマンドキュメンタリーを製作。『風のかたち』文化庁映画賞・カトリック映画賞受賞。『丈夫。』キネマ旬報文化映画第1位、『傍(かたわら)』～3月11日からの旅～』キネマ旬報文化映画第6位。2012年日本映画ペンクラブ功労賞、2013年度シネマ夢俱楽部賞受賞。近作は『シバ 繩文大のゆめ』(2013年)、『妻の病 -レビー小体型認知症-』(2014年)、『ゆめのほとり -認知症グループホーム 福寿荘-』(2015年)、『いのちのかたち -画家・絵本作家 いせひでこ-』(2016年)。最新作は『やさしくなあに～奈緒ちゃんと家族の35年～』(キネマ旬報文化映画第3位)。



人の強さに力があるのではなく弱さ  
限りある命を生きて死すとも映像の



# 永田久美子 氏

認知症介護研究・研修東京センター研究部長

新潟県三条市生まれ。千葉大学大学院（看護学）時代から認知症の本人と家族が共に安心して自分らしく暮らしていくことをテーマに活動と研究を続けてきている。東京都老人総合研究所を経て、2000年より現所属。当事者の声を聴きながら当事者や関係者と共にこれから暮らいや地域を創りだしていく研究スタイルを模索しながら、長年に亘って国内各地で脱領域のネットワークを育て、認知症になってからの生きがいづくり、認知症の人の行方不明ゼロ作戦、地元の力を活かしたやさしい地域づくり、本人自らが声をあげて誰もが暮らしやすい社会を目指す当事者組織「日本認知症本人ワーキンググループ」の活動などを続けている。

映画は生きてきた証を伝えるポジティブなメディア  
撮影される人をどんどん元気にしてゆく  
大人が言う徘徊も子どもが言えば冒険になる  
自分に出来るのは粘り強く諦めずにやり続ける事  
観てもらう事で映画は映画になる  
一人でも多くの人に観てもらう真剣な努力を



ごい力を持っている事に関心を持つて  
欲しいです。

## 病気や症状ではなく

### 人そのものを記録する

永田 さまざまテーマの作品がありますが、私にも関係が深い認知症をテーマにした作品、1本目の『妻の病』は、どのくらいで完成したんですか？

伊勢 主人公の石本浩市さんは友人でもある小児科医で、小児がんの記録を撮っていた10年の間に、奥さんが若年性の認知症になられたのが『妻の病』を撮るきっかけでした。

永田 最近は、認知症のドキュメンタリーも増えてきていますが、普通に暮らしていた女性が時間の経過の中でテレビ小体型認知症を発症し、変化



©いせフィルム

永田 問題のところだけが摘み取られて報道され、認知症の人に対する偏見になつたりします。でも『妻の病』のご夫妻を見て深刻な面もあるけど、観終わつた後、一種の爽快感がありまし

た。自主上映会が各地で開かれていますが、永田 伊勢 問題のところだけが摘み取られて報道され、認知症の人に対する偏見になつたりします。でも『妻の病』のご夫妻を見て深刻な面もあるけど、観終わつた後、一種の爽快感がありまし

た。自主上映会が各地で開かれていますが、永田 伊勢 摂り続けてきた姪っ子の記録、小児がんの子ども達の記録、認

知症の人の記録に共通しているのは、

永田 若者も小中学生もいて、「認

く時、手助けが必要な存在が身近にいて、その人の優しさや様々な可能

性を引き出すんだよね。「強さに力があるのではなく、弱さにこそ力がある」と思う、「ああ、本当にこの人がい

てよかつた」と思うような感じが「受

容」なのではないかと思います。

永田 『妻の病』でも深刻な大変さ

がある中、本人が鼻歌でタンゴを口ず

さむ瞬間がありました。人間って、つ

らさを抱えながらも面白い面や豊か

な面が出てきて、問題もあるけれど

捨てたもんじやないと思わせてくれま

す。ドキュメンタリーって深刻なテー

マももちろん大事ですが、人間をな

ぞうた時に希望が見えてくると言う

のもすごい方法論だと感じます。ボ

スターも夫婦睦まじく認知症の本人

とご主人が寄り添つて、日常の中で一

緒に歩いている、絶対的な存在感の

時間があります。事実を撮り続けて

いく中で存在の力が出るということ

を観てもらいたいです。

永田 永田さんが関わつておられ

る自主上映会には、どんな方が来ら

れますか？

伊勢 摂り続けてきた姪っ子の記

録、小児がんの子ども達の記録、認

知症の人の記録に共通しているのは、

永田 若者も小中学生もいて、「認

く時、手助けが必要な存在が身近に

いて、その人の優しさや様々な可能

性を引き出すんだよね。「強さに力があるのではなく、弱さにこそ力がある」と思う、「ああ、本当にこの人がい

てよかつた」と思うような感じが「受

容」なのではないかと思います。

永田 『妻の病』でも深刻な大変さ

がある中、本人が鼻歌でタンゴを口ず

さむ瞬間がありました。人間って、つ

らさを抱えながらも面白い面や豊か

な面が出てきて、問題もあるけれど

捨てたもんじやないと思わせてくれま

す。ドキュメンタリーって深刻なテー

マももちろん大事ですが、人間をな

ぞうた時に希望が見えてくると言う

のもすごい方法論だと感じます。ボ

スターも夫婦睦まじく認知症の本人

とご主人が寄り添つて、日常の中で一

緒に歩いている、絶対的な存在感の

時間があります。事実を撮り続けて

いく中で存在の力が出るということ

を観てもらいたいです。

永田 永田さんが関わつておられ

る自主上映会には、どんな方が来ら

れますか？

伊勢 摂り続けてきた姪っ子の記

録、小児がんの子ども達の記録、認

知症の人の記録に共通しているのは、

永田 若者も小中学生もいて、「認

く時、手助けが必要な存在が身近に

いて、その人の優しさや様々な可能

性を引き出すんだよね。「強さに力があるのではなく、弱さにこそ力がある」と思う、「ああ、本当にこの人がい

てよかつた」と思うような感じが「受

容」なのではないかと思います。

永田 『妻の病』でも深刻な大変さ

がある中、本人が鼻歌でタンゴを口ず

さむ瞬間がありました。人間って、つ

らさを抱えながらも面白い面や豊か

な面が出てきて、問題もあるけれど

捨てたもんじやないと思わせてくれま

す。ドキュメンタリーって深刻なテー

マももちろん大事ですが、人間をな

ぞうた時に希望が見えてくると言う

のもすごい方法論だと感じます。ボ

スターも夫婦睦まじく認知症の本人

とご主人が寄り添つて、日常の中で一

緒に歩いている、絶対的な存在感の

時間があります。事実を撮り続けて

いく中で存在の力が出るということ

を観てもらいたいです。

永田 永田さんが関わつておられ

る自主上映会には、どんな方が来ら

れますか？

伊勢 摂り続けてきた姪っ子の記

録、小児がんの子ども達の記録、認

知症の人の記録に共通しているのは、

永田 若者も小中学生もいて、「認

く時、手助けが必要な存在が身近に

いて、その人の優しさや様々な可能

性を引き出すんだよね。「強さに力があるのではなく、弱さにこそ力がある」と思う、「ああ、本当にこの人がい

てよかつた」と思うような感じが「受

容」なのではないかと思います。

永田 『妻の病』でも深刻な大変さ

がある中、本人が鼻歌でタンゴを口ず

さむ瞬間がありました。人間って、つ

らさを抱えながらも面白い面や豊か

な面が出てきて、問題もあるけれど

捨てたもんじやないと思わせてくれま

す。ドキュメンタリーって深刻なテー

マももちろん大事ですが、人間をな

ぞうた時に希望が見えてくると言う

のもすごい方法論だと感じます。ボ

スターも夫婦睦まじく認知症の本人

とご主人が寄り添つて、日常の中で一

緒に歩いている、絶対的な存在感の

時間があります。事実を撮り続けて

いく中で存在の力が出るということ

を観てもらいたいです。

永田 永田さんが関わつておられ

る自主上映会には、どんな方が来ら

れますか？

伊勢 摂り続けてきた姪っ子の記

録、小児がんの子ども達の記録、認

知症の人の記録に共通しているのは、

永田 若者も小中学生もいて、「認

く時、手助けが必要な存在が身近に

いて、その人の優しさや様々な可能

性を引き出すんだよね。「強さに力があるのではなく、弱さにこそ力がある」と思う、「ああ、本当にこの人がい

てよかつた」と思うような感じが「受

容」なのではないかと思います。

永田 『妻の病』でも深刻な大変さ

がある中、本人が鼻歌でタンゴを口ず

さむ瞬間がありました。人間って、つ

らさを抱えながらも面白い面や豊か

な面が出てきて、問題もあるけれど

捨てたもんじやないと思わせてくれま

す。ドキュメンタリーって深刻なテー

マももちろん大事ですが、人間をな

ぞうた時に希望が見えてくると言う

のもすごい方法論だと感じます。ボ

スターも夫婦睦まじく認知症の本人

とご主人が寄り添つて、日常の中で一

緒に歩いている、絶対的な存在感の

時間があります。事実を撮り続けて

いく中で存在の力が出るということ

を観てもらいたいです。

永田 永田さんが関わつておられ

る自主上映会には、どんな方が来ら

れますか？

伊勢 摂り続けてきた姪っ子の記

録、小児がんの子ども達の記録、認

知症の人の記録に共通しているのは、

永田 若者も小中学生もいて、「認

く時、手助けが必要な存在が身近に

いて、その人の優しさや様々な可能

性を引き出すんだよね。「強さに力があるのではなく、弱さにこそ力がある」と思う、「ああ、本当にこの人がい

てよかつた」と思うような感じが「受

容」なのではないかと思います。

永田 『妻の病』でも深刻な大変さ

がある中、本人が鼻歌でタンゴを口ず

さむ瞬間がありました。人間って、つ

らさを抱えながらも面白い面や豊か

な面が出てきて、問題もあるけれど

捨てたもんじやないと思わせてくれま

す。ドキュメンタリーって深刻なテー

マももちろん大事ですが、人間をな

ぞうた時に希望が見えてくると言う

のもすごい方法論だと感じます。ボ

スターも夫婦睦まじく認知症の本人

とご主人が寄り添つて、日常の中で一

緒に歩いている、絶対的な存在感の

時間があります。事実を撮り続けて

いく中で存在の力が出るということ

を観てもらいたいです。

永田 永田さんが関わつておられ

る自主上映会には、どんな方が来ら

れますか？

伊勢 摂り続けてきた姪っ子の記

録、小児がんの子ども達の記録、認

知症の人の記録に共通しているのは、

永田 若者も小中学生もいて、「認

く時、手助けが必要な存在が身近に

いて、その人の優しさや様々な可能

性を引き出すんだよね。「強さに力があるのではなく、弱さにこそ力がある」と思う、「ああ、本当にこの人がい

てよかつた」と思うような感じが「受

容」なのではないかと思います。

永田 『妻の病』でも深刻な大変さ

がある中、本人が鼻歌でタンゴを口ず

さむ瞬間がありました。人間って、つ

らさを抱えながらも面白い面や豊か

な面が出てきて、問題もあるけれど

捨てたもんじやないと思わせてくれま

す。ドキュメンタリーって深刻なテー

マももちろん大事ですが、人間をな

ぞうた時に希望が見えてくると言う

のもすごい方法論だと感じます。ボ

スターも夫婦睦まじく認知症の本人

とご主人が寄り添つて、日常の中で一

緒に歩いている、絶対的な存在感の

時間があります。事実を撮り続けて

いく中で存在の力が出るということ

を観てもらいたいです。

永田 永田さんが関わつておられ

る自主上映会には、どんな方が来ら

れますか？

伊勢 摂り続けてきた姪っ子の記

録、小児がんの子ども達の記録、認

知症の人の記録に共通しているのは、

永田 若者も小中学生もいて、「認

く時、手助けが必要な存在が身近に

いて、その人の優しさや様々な可能

性を引き出すんだよね。「強さに力があるのではなく、弱さにこそ力がある」と思う、「ああ、本当にこの人がい

てよかつた」と思うような感じが「受

容」なのではないかと思います。

永田 『妻の病』でも深刻な大変さ

がある中、本人が鼻歌でタンゴを口ず

さむ瞬間がありました。人間って、つ

らさを抱えながらも面白い面や豊か

な面が出てきて、問題もあるけれど

捨てたもんじやないと思わせてくれま

す。ドキュメンタリーって深刻なテー

マももちろん大事ですが、人間をな

ぞうた時に希望が見えてくると言う

のもすごい方法論だと感じます。ボ

スターも夫婦睦まじく認知症の本人

とご主人が寄り添つて、日常の中で一

緒に歩いている、絶対的な存在感の

時間があります。事実を撮り続けて

いく中で存在の力が出るということ

を観てもらいたいです。

永田 永田さんが関わつておられ

る自主上映会には、どんな方が来ら

れますか？

伊勢 摂り続けてきた姪っ子の記

録、小児がんの子ども達の記録、認

知症の人の記録に共通しているのは、

永田 若者も小中学生もいて、「認

く時、手助けが必要な存在が身近に

いて、その人の優しさや様々な可能

性を引き出すんだよね。「強さに力があるのではなく、弱さにこそ力がある」と思う、「ああ、本当にこの人がい

てよかつた」と思うような感じが「受

容」なのではないかと思います。

永田 『妻の病』でも深刻な大変さ

がある中、本人が鼻歌でタンゴを口ず

さむ瞬間がありました。人間って、つ

らさを抱えながらも面白い面や豊か

な面が出てきて、問題もあるけれど

捨てたもんじやないと思わせてくれま

す。ドキュメンタリーって深刻なテー

マももちろん大事ですが、人間をな

ぞうた時に希望が見えてくると言う

のもすごい方法論だと感じます。ボ

スターも夫婦睦まじく認知症の本人

とご主人が寄り添つて、日常の中で一

緒に歩いている、絶対的な存在感の

時間があります。事実を撮り続けて

知症のこと」をすぐ真剣に観て、気づくんですよ。

**伊勢** 子どもや若い人は分からないし、興味がないと決めつけてしまうのは大人です。認知症になってしまつたお年寄りがフラフラと出ていった時に、近所の子どもが見ていて「おじいちゃん、向こうに行つたよ」とか、又子ども達が公園で遊んでいるのを、お年寄りがベンチに座りながら見ていることもあるし、つながつてているんです。

**永田** お互い見守り見守られ、ですね。大人が言う「徘徊」も子ども達は「外に冒険に行きたいんだよ。一緒にいて行く」って言うんです。

**伊勢** 『妻の病』のあと『ゆめのほとり』は認知症のグループホームの話ですが、公園に散歩に連れて行つたら、遊んでいた子ども達がおばあちゃんと分かり合つて話をしているシーンがあります。

**永田** 専門的知識やスキルは必要だけど、それがないとコミュニケーション出来ないみたいに、専門の方が肥大化してしまいます。町での出会いやチャンスがあれば、どんな世代とも関わりができます。その方がむしろいいと思つてしまします。



### 全員が主人公の グループホームの記録

**伊勢** 姉が知的障害の作業所を起ち上げた事で、知的障害の人との付き合いも昔からありました。その後、『ゆめのほとり』というグループホームの映画を作つたわけですが、「認知症の人は、ちゃんと分かつてているんだ」と思ひます。知的障害の人や認知症の人、あるいは2、3歳の幼児等、言葉が伝わらない存在は、物事が分かつてない、考へていなかと言つう

大間違いで、いろんな事を考へ、想つてゐるんです。傍にいると判ります。話さないということは、他の人を受け止める事は出来ても伝えることがうまく出来ないというだけで、誰でいるんじやないか、放つておいて欲しかつらいんじやないか、放つておいて欲しく見ええてくることがある。本当はつらいんじやないか、放つておいて欲しくないんじやないか、何か言つたそつだけど、もうちょっと待つてば言葉を発したり、もつと出来る事がある人だよね、等、傍にじーつといいるからこそ見えてくるんです。

**伊勢** 子どもの頃「はい！」つて発言するといい子だと言われたけど、発言する人がいたら聞く人もいないですね。大人になつて、主張する事が善で、主張しないのは仕事が出来ない奴だという烙印は、かなりの錯覚だと思

だ、と思つたりね（笑）

**永田** 本当の意味でじーつとそこによると、その人がどんな反応をするのか見えてくることがある。本当はつらいんじやないか、放つておいて欲しくないんじやないか、何か言つたそつだけど、もうちょっと待つてば言葉を発したり、もつと出来る事がある人だよね、等、傍にじーつといいるからこそ見えてくるんです。

**伊勢** それはすごいことですよ。周囲がコントロールして本人を動かす、ということは往々にしてあります。本人は言わないけど、気づいて

まに生かされていくことへのつらさや悲しさ、みじめさを感じています。言葉は優しいけれど、実質は本人の時間をコントロールして、手つ取り早く処理してという感じで、レールに乗せられた様な対応が問題になつてきます。それは、傍にいないと見えません。たまに来るご家族や行政の人は、テキパキ動く職員の姿に「よく働いている」という印象を受けますね。

**伊勢** ここはいいグループホームだ、と思つたりね（笑）

**永田** 本当の意味でじーつとそこによると、その人がどんな反応をするのか見えてくることがある。本当はつらいんじやないか、放つておいて欲しくないんじやないか、何か言つたそつだけど、もうちょっと待つてば言葉を発したり、もつと出来る事がある人だよね、等、傍にじーつといいるからこそ見えてくるんです。

**伊勢** 子どもの頃「はい！」つて発言するといい子だと言われたけど、発言する人がいたら聞く人もいないですね。大人になつて、主張する事が善で、主張しないのは仕事が出来ない奴だという烙印は、かなりの錯覚だと思

# 永田久美子 氏×伊勢真一 氏

いますよ。認知症のおじいちゃん、おばあちゃん達は、そういう事を教えてくれました。撮影現場で「監督だからテキパキと、黒澤明さんみたいにキヤメラマンやスタッフに指示してやるのかなあ、と思ったら、伊勢さんはただ傍にいてボーッとしてるだけですね」って（笑）。でも撮影する人、照明の人、録音の人、あるいはマネージメントをする人、それぞれの役割があってひとつプロジェクトが成り立つわけですね。何もないでボーッとしている人の存在があることで映画が出来るんだと言うんだけどね（笑）

永田 そうして、いたから、みんなが本当に天真爛漫で、いつもの地のままで、ありのままをカメラの前にさらけ出せたのは貴重だと思いました。

伊勢 そのグループホームのリーダー武田純子さんに完成前の状態で観てもらった時に「こんな姿、見たことがない」と驚いていました。「きっと若い男たちが（俺は別に若くないんだけど、おばあちゃん達から見ると若いから）来たので、いいとこ見せようと思つたのかしら」って。「私は綺麗に映つているかしら」とか、気に入るつて素敵なことじやないですか。「あ

のグループホームはすごくいいな」と思つたのは、そういう空気感があつて、ある上映会で、施設の方だと思つたが手を挙げて「どうしてジャージを着ていないんですか？」と言われたことがあります（笑）。一般的には、ジャージにポロシャツという所が多いんでしょ？

永田 そうですね、でもあのグループホームの職員は、皆私服ですね。伊勢 質問された人は多分批判的な意味だったと思いますね。

永田 價値観が全然違うんです

のグループホームはすごくいいな」と思つたのは、そういう空気感があつて、ある上映会で、施設の方だと思つたが手を挙げて「どうしてジャージを着ていないんですか？」と言われたことがあります（笑）。一般的には、ジャージにポロシャツという所が多いんでしょ？

伊勢 「何かあつた時に困るでしょ」と言うけど、例えば「正月だから赤い服を着て行こうかな」って赤い服で行つたら、おばあちゃん達が「あら！ 級麗な赤い服、私も着替えてこよう」と着替えてたりする、それが普通だし自然だと思います。

永田 何人かいる職員が、ひとりひとりのつながりや個人の楽しい話を全部切り捨てられて、職員A、B、Cになつてしまふのは、本人から見てもすぐ寒々とした光景で、その人が誰あるんだとか、又、認知症になつても、暮らしが一緒に大事にしてくれる人がいれば、暮らしが丁寧に営んでいればいいんだと、感じられます。同じ介護保険の制度の下に、現在、1万数千か所のグループホームがありますが、15年以上経つた今、何を大事にして小規模なグループホームが出来たのかが脇に追いやられ、残念ながら管理的な面だけが重装備になつています。職員や行政任せにせず、自分の事として一緒に話したり、遊びに行つたりできたらいいな、と思います。この映画は、難しいことをやらなくとも、特殊な環境や装備に大きなお金をかけなくとも出来る事はあるんだということが記録されていて、どんな研修よりも人材育成にいいと思います。

伊勢 この作品は、みんな、ひとりが主人公。そしてひとりひと

ね。職員は皆、制服を着る、と。

伊勢 「何かあつた時に困るでしょ」と言うけど、例えば「正月だから赤い服を着て行こうかな」って赤い服で行つたら、おばあちゃん達が「あら！ 級麗な赤い服、私も着替えてこよう」と着替えてたりする、それが普通だし自然だと思います。

永田 何人かいる職員が、ひとりひとりのつながりや個人の楽しい話を全部切り捨てられて、職員A、B、Cになつてしまふのは、本人から見てもすぐ寒々とした光景で、その人が誰あるんだとか、又、認知症になつても、暮らしが一緒に大事にしてくれる人がいれば、暮らしが丁寧に営んでいればいいんだと、感じられます。同じ介護保険の制度の下に、現在、1万数千か所のグループホームがありますが、15年以上経つた今、何を大事にして小規模なグループホームが出来たのかが脇に追いやられ、残念ながら管理的な面だけが重装備になつています。職員や行政任せにせず、自分の事として一緒に話したり、遊びに行つたりできたらいいな、と思います。この映画は、難しいことをやらなくとも、特殊な環境や装備に大きなお金をかけなくとも出来る事はあるんだということが記録されていて、どんな研修よりも人材育成にいいと思います。

伊勢 この作品は、みんな、ひとり



なのか、誰に話しかけたらいいのかも憶えにくくて、とても非人間的な場になつてしまします。『ゆめのほとり』と言う、とても文学的な優しいタイトルですが、今までの医療や介護の方法とか難しい事ではなく、どういう場があつたらもう少し希望を持って歳を取つていただけるか、こんな歳の取り方も普通だし自然だと思います。

伊勢 「何かあつた時に困るでしょ」と言うけど、例えば「正月だから赤い服を着て行こうかな」って赤い服で行つたら、おばあちゃん達が「あら！ 級麗な赤い服、私も着替えてこよう」と着替えてたりする、それが普通だし自然だと思います。

永田 何人かいる職員が、ひとりひとりのつながりや個人の楽しい話を全部切り捨てられて、職員A、B、Cになつてしまふのは、本人から見てもすぐ寒々とした光景で、その人が誰あるんだとか、又、認知症になつても、暮らしが一緒に大事にしてくれる人がいれば、暮らしが丁寧に営んでいればいいんだと、感じられます。同じ介護保険の制度の下に、現在、1万数千か所のグループホームがありますが、15年以上経つた今、何を大事にして小規模なグループホームが出来たのかが脇に追いやられ、残念ながら管理的な面だけが重装備になつています。職員や行政任せにせず、自分の事として一緒に話したり、遊びに行つたりできたらいいな、と思います。この映画は、難しいことをやらなくとも、特殊な環境や装備に大きなお金をかけなくとも出来る事はあるんだということが記録されていて、どんな研修よりも人材育成にいいと思います。

伊勢 この作品は、みんな、ひとり



り違っていて、ひとりひとりがちゃんとそこにいるということを感じてもうよううにしたいなと思つて創りました。分かり易さを大切にするテレビを見慣れていると「いつたい何を言おうとしているのか分からぬ」つてなつたりします。

永田　自分で感じたり考えたりせずに、説明を待っているという感じね。  
伊勢　ナレーションも何にもないから、でも、その空気みたいなものを、「そういう世界があるんだね」と感じられたら、力になると思いますね。

# 映画のなかで 生き続ける人たち

**永田** 認知症の番組等で注目されているのは、非常に長い経過を辿ることです。認知症は平均15年から20

伊勢 勿論、パラリンピックを観れば「すごい！」と思うし、素直に素晴らしいと思いますよ。『ゆめのほとり』

**永田** 立派に過ごしている認知症を求めているのか、と。

伊勢 「認知症『なのに』とか『障がい者』『なのに』こんな事が出来ると言ふことがあるけど、誤解ですよ。何も出来なくていびきかいて寝てる、いいじやない、と思つてもらいたい。生きるっていうことは、そんなに都合よく、「こういう事が出来てこの人らは立派なんだ」ではないからね。

でも、「俺は俺だ」、「私は私よ」と言う暮らしが実現できることを見せてくれます。

永田 「死んだ事を理解していく  
い」とか「映画は過去に撮影したもの  
だ」と言うのではなく……。

伊勢 映画つてすごいと思う、老人に限らず誰でも限りある命を生きて死ぬんです。でも、映像でとらえていることは、ある意味永遠にその中で生き続けるという事です。以前、『風のかたち』と『大丈夫。』という小児がんの記録映画をつくりました。8割は治るようになりましたが、

わけです。映画はその人がある時間  
をしつかり生きたという事を、伝える  
ことが出来るポジティブなメディアだ  
と思います。

永田 すぐ。ボテンシャルが高いです。

すね。記録としてはあれは、観た人の想い、生きてきた試、時代の総てが伝わっていきます。ドキュメンタリーにしか出来ない大きな価値があると思います。

伊勢「遺影」って、家に写真を飾つてたり、財布に入れてたりしま

すね。それが動画で残っていると、声とか仕草とか雰囲気とか、その人のことを感じさせますよね。先程の35

年の記録を撮つた動機も、「長く生き

が出来上がった時に、「福寿荘」の撮影させてもらった人達に観てもらつたんです。全部で50人ぐらいいたかなで。途中で出てきた人を見て、一番前のおばあちゃんが「あんた、ここにいたの！」って。そう言われた映画に写つていたおばあちゃんは、3か月前に亡くなっていたんですが、要するに、このおばあちゃんは映像の中に映つているから「いる」と受け止めているわけです。それでいいと思うんだよね。

**永田** 「死んだ事を理解していない」とか「映画は過去に撮影したものだ」と言うのではなく……。

**伊勢** 映画つてすごいと思う、老人に限らず誰でも限りある命を生きて死ぬんです。でも、映像でとらえていることは、ある意味永遠にその中で生き続けるという事です。以前、『風のかたち』と『大丈夫。』という小児がんの記録映画をつくりました。8割は治るようになりますが、治るのが難しい2割の同じ病気を抱えた子ども同士で語り合おうというキャンプをしました。10年の間撮つたので、亡くなつてしまふ子ども達が毎年出てくるわけです。前の年には

元気に走り回っていたその子達の映像がたくさん溜まつてました。小児がんは不治の病ではないということを伝えたくて創った『風のかたち』の時に、亡くなつた子ども達を映画の中に入思う存分入れられなかつたので、もう一本『大丈夫。』という映画を製作しました。「この子達はこの時こんなに元気に夢を語つて生きていた、だから映画の中で生き続けるんだ」と言つてゐいで。認知症でなくても、撮影していた人がいなくなるという事はあるわけです。映画はその人がある時間をしてつかり生きたという事を、伝えることが出来るポジティブなメディアだと思います。

ないかもしない」姪っ子を残しておきたいと言う気持ちで撮りはじめたんですが、どんどん元気になつて(笑)案外、撮影されている人を元気にするのかかもしれません。

永田

撮影されることが、自分の

存在をすごくしっかりと感じたりできる機会だからかもしれませんね。ドキュメンタリーを観たり自主上映会を開くことも、繋がりを考えることになります。時代や生き方を写し取り、それを通じて今、自分達はこんな生き方でいいんだろうか、とハッとさせられる面があります。こういう時代だからこそ、ゆつたりした時間軸のドキュメンタリーを仕事の中で伝えた

永田

上映はどのようにしていらっしゃるんですか?

伊勢

殆どの映画は、製作したものを配給宣伝の会社が取り仕切つて

上映する形ですが、配給とか宣伝とかいう仕事があることさえ知らずに映画を創り始めたので、私は自分でやつています。

永田 かなり珍しいスタイルですよ

り、仕事 자체を記録として残していくことが大事ですね。

伊勢

認知症の劇映画は結構あつて、どこの国でもだいたい「名優」が

主人公を演じています。ちょっと古いけど森繁久彌さんが有吉佐和子さんの「恍惚の人」を演りましたね。でも、「ゆめのほとり」に出てくるおばあちゃんやおじいちゃんの名優ぶりは見事です。カメラがある事を充分に意識して、それであんなに素敵な「芝居」が打てるのはすごい。例え言葉が出な

くとも、言葉が出ないもどかしさを表情で、全身で、ありのままに表現しています。ドキュメンタリーを好きでやつてるのは、そういうことなんですね。

## 大工から映画の世界へ きつかけは「空」だった

け自主上映というスタイルにこだわっています。

永田 認知症のケアの方では、DVDにして誰でも手に入れられるよ

うになるといいという声もあります

で完結してしまって対話は生まれま

せん。一長二短あると思いますが、自

主上映で皆が会場に集まって多くの

人が一緒に観るわけですね。『妻の病』

の主人公は高知出身なので、高知の

浜の波と、月が雲に隠れたり見えた

りする様子等、生きる時間と自然の

時間が交錯している様でした。映画

館のスクリーンで観ると、「生きて、

消えてゆくってこういう事なんだな」と言う様な、映像の力に共感します。

伊勢 自主上映 자체をずっと地域

でやつている人や、やつたことがない

けど是非やつてみたいとか、お問い合わせを頂いています。ホールを借りる

ケースもあれば、お寺の講堂、教会、

学校の体育館もあります。そして、間

違いく映画は観てもらうことで映

画になるんです。だから、編集室やス

タジオで「傑作ができた」と悦んだり、

試写室で映画評論家や皆でベスト10

を決めたり賞を決めたりしても、そこ

までは本当は「映画」じゃないんです。

さつきの福寿荘の「あんた、ここにい

たの」という感覚で見られて初めて映画になるんです。やっぱり観てもらう

ということがすごく重要ですね。

永田 2本目の『ゆめのほとり』の

音楽は全部マイムマイムのアレンジで

湖のほとりで踊っている物悲しいマ

イムマイムのシーンもあれば、おばあ

ちゃん達が少女の様に踊るシーンな

どバリエーションがすごく豊かです。

伊勢さんはあの映像を見ながら音楽

が湧いてきたんでしようね。



伊勢さんはあの映像を見ながら音楽が湧いてきたんでしようね。

**伊勢** 映画は、映像も音楽もおしゃれでありたいと思っています。「ドキュメンタリーはその問題さえ語られていい」と言う人もいますが、自分が「あ、いいな」と思うようなことを積み重ねていくことが、映画を創る悦びだし、ポスターも「あ、いいね」という様なものを作りたいですね。

**永田** ところで、伊勢さんがドキュメンタリーを撮られるようになつたきっかけは何でしたか？

**伊勢** 実は、親父が記録映画の編集者だったんですが、離婚して一緒に暮らしていなかつたので、思春期の頃は親父を憎しみの対象みたいに思つてました。高校生から大学生になつて、だんだんそういう感じではなくなつてきた時にがんで急に亡くなつて、映像関係の人が葬式の時に、親父と同じ仕事をしていると誤解して「よかつたらうちの仕事を手伝つて下さい」と言つてくれたんです。その頃、働くという実感を持つには汗を流してやる仕事、と思つて大工をやつていたのですが、時々ボーッと空を見上げる癖が災いして、クビになつていました。そんな時「今、空いてますか？」とプロデューサーから連絡があつたのですが、映像の世界では

「今、作品が入つてますか？」という意味で、本当に仕事がなく空いていたので出かけて行つたら、編集の前段階の膨大に回つてゐるフィルムを1時間半ぐらにまとめる仕事で、「親父と同じ映像の仕事をだけはやるまい。あんなのは一人前の人間がやる仕事じゃない」とずっと思つてたのに、やりはじめたら結構面白くて、夢中になつてその仕事を仕上げたら、そのプロダクションに出入りする人からも「今度うちの仕事を手伝つてほしい」と言われるようになりました。そのうち現場に出る様になつて、又空を見上げたら現場の大先輩達から「入つたばかりなのに、天気をちゃんと心配してゐるんだ」と、大工の時は逆に褒められ「これは天職だな」と思つてやめられなくなつてしまつました。(笑)

**伊勢** そうですか(笑) いいお話をですね。

**伊勢** ちょっと面白可笑しく言つてますが、嘘じやないんですよ(笑)

でも、人の向き不向きなんて分から

ないよね。映像の仕事に限らないかも

りませんが、始めた時も「夢中にな

る」と言う事が自分に必要だつ

たんですね。だから今

もまあ、夢の中と言つ

か・・・。「無我夢中

」と言う言葉が好きなん

ですね。我が無くて夢

の中、変に、ちよつと引

いた感じで自分の事を

冷静に考えたりしてい

たら、こんなに長く続

かなかつたでしようね。

殆ど冷静に考えないので

そのことで怒られ

たり批判されたりする

こともあるけど、「もつ

といいものを創れたら」

と言つた事だけを想い続

けてやつてきました。

もつといいものが創れたら自信を持つ

て「是非、ドキュメンタリーを」と後

輩にも勧めたいところですが、人気な

いんですよ。ドキュメンタリーをや

ろうつていう人は、映像を目指す人

の中で100人の内5人いるかいな

ね。それを払拭するためにも、もつと

見でもらう機会が増えていつてほしい

な、と思います。今日はどうもありが

とうございました。

**伊勢** こちらこそありがとうございました。

**伊**